



イヌは^{あせ}汗をかくの

^{あせ}汗はかかない

イヌは、ほとんど^{あせ}汗をかきません。人間のように汗を出すしくみ（^{かんせん}汗腺）が、^{からだ}体がないからです。足の裏に、ほんの少し汗をかくだけです。

イヌは、全身が^{ぜんしん}毛皮におおわれていて、暑いときは、舌を出しながら、ハッハッハッと息をして苦しそうです。逆に、冬の寒いときは元気いっぱい、^{ゆき}雪の中をかけ回ったりします。イヌは、寒さには平気で、暑さは苦手といえそうです。なぜでしょう。

イヌの先祖が^{せんぞ}現れたころは、イヌはとても寒い所にいたようです。そのため、^{からだじゅう}体中が厚い毛でおおわれ、寒さを防ぐ準備はできていますが、暑さに対しては、汗をかきしくみが退化して、なくなってしまったと考えられています。

ぬれた舌の表面が汗のかわりをする

イヌは、人間が季節によって夏服や冬服にきがえるように、夏は夏毛、冬は冬毛と、毛が生えかわり、夏にはすずしいものになります。しかし、とても暑いときは、口を開け、ぬれた長い舌を出して、息をハッハッハッと出します。ぬれた舌が、汗のかわりをして、体温が上がるのを防いでいるのです。汗が蒸発するとき、皮ふの熱がうばわれるので、すずしくなるように、舌の表面で体の熱がうばわれるのです。（監修・今泉 忠明）

